第4章　空間計画

4．1　空間計画の全体像

（1）ガーデンミュージアムの考え方

本計画の基本コンセプトである『ガーデンミュージアム*』は、自然風植栽による「ナチュラルガーデン*」を基調としながら、「ビオガーデン*」、「エコ・ファームガーデン*」、「エコ・ウェルネスガーデン*」、「マルシェガーデン*」の４つのガーデン*により構成されます。

４つのガーデンは、周辺の土地利用や環境条件に応じて配置され、各ガーデンが濃淡を持ち、重なり合いながら徐々に移行するように展開することにより、変化に富んだ景観と空間の機能が調和し、多様性を発揮する空間構造を目指します。

＜周辺の環境条件＞　　＜ガーデンミュージアムを構成する４つのガーデン＞

自然的

ビオガーデン

○環境共生をテーマとする施設整備・空間デザインを図り、せせらぎや森（林）などの自然と遊び、学ぶことのできる場とします。

エコ・ファームガーデン

○安全・安心な農業をテーマとする農業系機能を主体に施設整備・空間デザインを図り、土とのふれあいや人と自然の関わりが学べる場とします。

エコ・ウェルネスガーデン

○雑木林を背景に、隣接するスポーツ施設などと一体的に整備を図り、市民が集う健康づくりの場とします。

マルシェガーデン

○ガーデンミュージアムの中心的空間として、季節の変化などを楽しめる様々なテーマガーデン*を配置します。店舗やイベント空間などを整備し、にぎわいの拠点を形成します。

都市的

＜各ガーデンの配置の考え方＞

ゾーニング*による配置計画ではなく、周辺環境・土地利用に応じ各ガーデンを配置し、各ガーデンが濃淡を持ち、重なり合いながら徐々に移行するように展開します。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（2）各区間整備の考え方

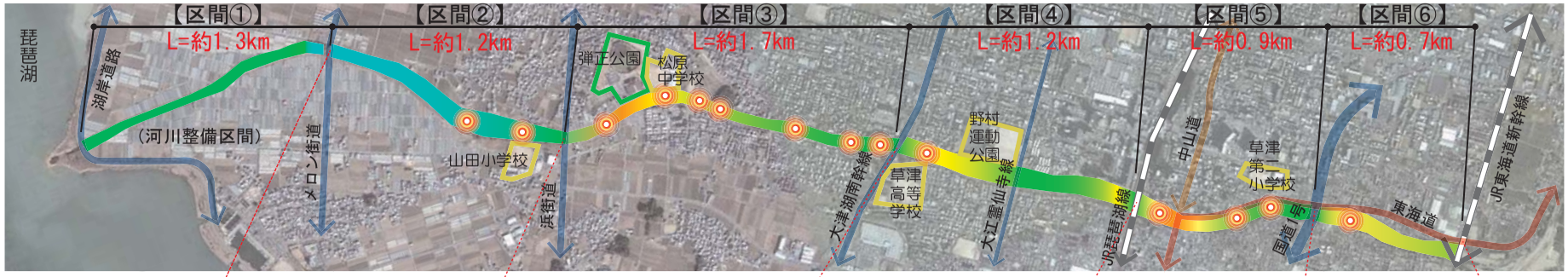
基本構想における区間別整備方針を踏まえた上で、周辺環境との調和やガーデンミュージアム*のコンセプトを反映し、より具体的な整備テーマを以下に設定します。区間①（琵琶湖～メロン街道）は、河川区域として県による維持管理を継続するため、基本計画では対象外としました。

＜区 間＞	＜ 整 備 テ ー マ ＞
区間① L=約 1.3km	**河川環境を保全するみどりの創出** ○河川整備区間として、滋賀県により琵琶湖や河川固有の自然生態系や自然環境を保全します。
区間② L=約 1.2km	**農と人の共生** ○周辺に農地が広がる区間②では、「農と人との共生」をテーマとします。周辺環境と一体化する菜園、ふれあい牧場などの農的な空間を配置し、人と土・人と動物とのふれあいの場や、食を通じた農家と都市住民の交流の場などを整備します。
区間③ L=約 1.7km	**森と人の交流** ○農地と市街地の双方に近い区間③では、「森と人の交流」をテーマとします。都市環境に潤いをもたらす雑木林の再生を図り、身近な自然に包まれ、様々な市民活動や健康づくり・スポーツに親しめる場を整備します。
区間④ L=約 1.2km	**環境と人の共生** ○市街地内を通り、運動公園や民間開発予定地に隣接する区間④では、「環境と人の共生」をテーマとします。隣接する公園との一体整備や民間開発に際しては、人の営みと自然が調和する環境共生型の都市づくりを進めます。
区間⑤ L=約 0.9km	**人と人の交流** ○中心市街地に位置する区間⑤では、「人と人の交流」をテーマとします。ガーデンミュージアムの拠点として各種ガーデン*の合間に様々な集客施設を配置し、中心市街地や草津宿と一体となって、市内外の人々が集い・楽しめるにぎわい空間を整備します。
区間⑥ L=約 0.7km	**時と人の出会い** ○過去の主要動線*である「東海道」と現在の主要動線である「国道１号」・「ＪＲ東海道新幹線」が交わる区間⑥では、「時と人の出会い」をテーマとします。時を越えて、人が行きかう環境を活かしながら、草津の歴史と未来をつなぐやすらぎ空間を整備します。

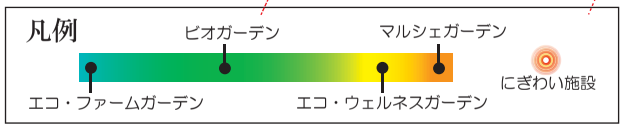
注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（3）全体配置計画

①ガーデンミュージアムの配置計画



凡例



様々なガーデンを各区間に展開すると共に、ゆるやかに変化させながら新たなガーデンにつながるようにガーデンミュージアムを形成します。

②各区間の導入施設例と市民活動例

各区間の整備テーマに基づき、導入施設例、市民活動例を示します。

区間	区間②	区間③	区間④	区間⑤	区間⑥
整備テーマ	農と人の共生	森と人の交流	環境と人の共生	人と人の交流	時と人の出会い
導入施設例	●ふれあい牧場 ●農園（カフェと提携） ●貸し農園（菜園ガーデン） ・駐車場 ・管理棟（研修室、カフェ）	●自然環境学習広場 ●公園駐車場（芝生広場） ●市民の森 ●健康広場 （グランドゴルフ、ゲートボールなど） ●イベント広場 ●屋外アートスペース ●フットサル場 ●自然ふれあい広場	●エコパーク ●セラピー空間 ●エコシティ ●観光駐車場	●マルシェ広場（市場） ●イベント広場（草津宿場まつり、街あかり華あかり夢あかりなど） ●カフェ ●セレクトショップ ●レンタサイクル ●野外小劇場 ●駐車場	●東海道をテーマにした街道の整備
市民活動例	・菜園講座、菜園サークル ・食育サークル	・軽スポーツサークル　・エコロジーサークル　・自然学習活動　・絵画サークル　・写真サークル　・演劇サークル　・音楽サークル ・各種イベント　・コミュニティガーデン活動　・ウォーキングサークル　・地域活動（イベント開催など）			

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

4. 2「自然風を基調とする」植栽計画

（1）植栽計画の考え方

ガーデンミュージアム*の植栽計画は、全体を通じて「自然風」の植栽デザインを基調とすると共に、以下の考え方に基づき、従来の一般的な公園などにみられる植栽とは違った、心身が癒され、生きる力が得られる場にふさわしい質の高い植栽計画とします。

■ナチュラルガーデン仕様

造形的な「庭園風」「仕立て風」の植栽計画はとらず、植物が本来有している自然な姿を活かし、その生命力を活かす「自然風」を基調とします。

■多様な植生

高木、中木、低木、地被類*（草花）や、常緑・落葉を組み合わせ、自然界にみられるように、同一樹種のまとめ植えではない「混植」を基本とします。

■育つ植栽景観

樹木は自然樹形に近づけ、草花は多年草*を主とすることで、年月と共に美しく成長する姿を目指します。

■季節感の演出

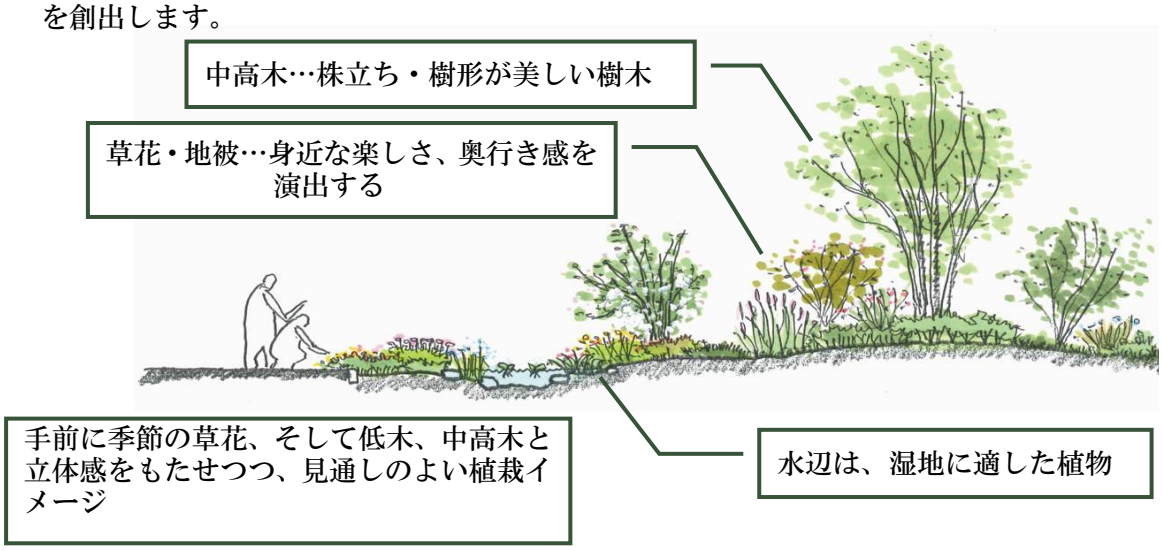
季節の微妙な移り変わりを感じられるよう、多様な高木や中低木の樹木や草花を組み合わせることで、常に旬の花、実、紅葉、新緑が楽しめるように演出します。

■生物多様性*の取り入れ

バタフライガーデン*、水生生物の棲み家となる水辺植生、野鳥を呼ぶ実のなる植生などを配植し、人と生きものがふれあうことのできる環境を創ります。

■バリエーション

広葉樹を主体とする混植により、緑軸*全体にナチュラルガーデン*としての統一基調を保ちながら、各ゾーンに導入する機能・施設に合わせ、低木や地被類（草花）、水辺空間などにより、特色あるガーデン*デザインを施すことで、変化と魅力に富んだ多彩な緑地景観を創出します。



注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（２）基調となる植栽樹種

草津市にみられる植生環境としては、丘陵地に残されるアカマツ－モチツツジ群集、神社や仏閣の周辺に残されるシイ－カナメモチ群集が挙げられます。また、平地では、アカマツに変わってコナラが優先する一般的な雑木林が分布しています。

草津川跡地に現存する樹木としては、草津川の代名詞でもある中心市街地部の桜並木のソメイヨシノや、エノキやムクノキの大木が区間を通して点在し、特徴的な空間を形成しています。本計画では、それら既存植生を視野に入れ、雑木林や草原をモチーフ（表現の主題）にしたナチュラルガーデン*の考え方により、変化に富んだ美しくバリエーションのある植栽計画を目指します。

ガーデンミュージアム*の軸となる代表的な高木の花期と実のなる時期をまとめました。

雑木の庭における代表的な高木の花期カレンダー

○落葉を示します　▬ 花期　●実のなる時期

種類	名称	花の色	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
高木	○アオハダ	緑白色		▬	▬										
	○アカメヤナギ	黄緑色	▬												
	○イロハモミジ	赤	▬	▬		●	●	●							
	○ウワミズザクラ	白	▬	▬											
	○エゴノキ	白		▬	▬										
	○エドヒガン	淡紅色まれに白	▬											▬	
	○エノキ	黄	▬	▬											
	○オオモミジ	紅色	▬	▬											
	○カスミザクラ	白色またはわずかに紅色	▬	▬											
	○コナラ	樹褐色	▬	▬				●	●	●					
	○コバノトネリコ	白	▬	▬											
	○タカノツメ	黄緑色		▬	▬										
	○ネムノキ	淡紅色			▬	▬	▬								
	○ハンノキ	紅色											▬	▬	
	○ヒメシャラ	白			▬	▬									
	○ミズキ	白		▬	▬				●	●					
	○ムクノキ	淡緑色		▬											
	○ヤマザクラ	ピンク	▬											▬	
	○ヤマハゼ	黄緑色		▬	▬										
	○リョウブ	白		▬	▬										
	アラカシ	黄	▬	▬											
	カクレミノ	黄緑色			▬	▬									
	シロダモ	黄褐色						●	▬ ●	▬ ●	●				
	ソヨゴ	白			▬	▬				●	●				
	ネズミモチ	白		▬	▬	▬			●	●					
	ホルトノキ	帯黄白色			▬										
	ヤブツバキ	白・赤	▬					●	●	●			▬	▬	
	○サルスベリ	紅・ピンク・紫・白			▬	▬	▬	▬							

株立ちの姿が美しい
コナラ

盛夏に鮮やかな花をつける
サルスベリ

樹の肌が美しいヒメシャラ

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

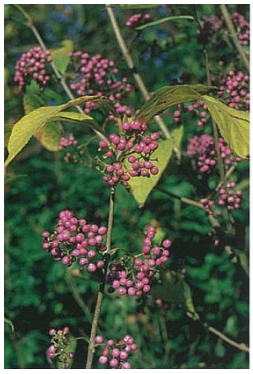
ガーデンミュージアム*の見所は、季節の繊細な移り変わりを表現する花々です。サクラに代表される花の見事な高木もありますが、一年を通じて日々の暮らしに彩りを添える花や実は、中低木が中心となります。

雑木の庭における代表的な中低木の花期カレンダー

○落葉を示します　▬ 花期　● 実のなる時期

種類	名称	花の色	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
中低木	○アキグミ	白	▬	▬				●	●						
	○ガマズミ	白	▬	▬				●	●	●					
	○キンキマメザクラ	白または淡紅色	▬	▬											
	○コバノガマズミ	白	▬	▬				●	●						
	○コバノミツバツツジ	紅紫色	▬	▬											
	○シラキ	黄		▬	▬				●	●					
	○ダンコウバイ	黄	▬					●	●					▬	
	○ナツハゼ	淡黄褐色		▬	▬										
	○ネジキ	白			▬										
	○マルバウツギ	白		▬											
	○マルバハギ	紫紅色					▬	▬	▬						
	○マルバマンサク	黄												▬	
	○ムラサキシキブ	薄赤色			▬	▬			●	●					
	○ヤマツツジ	赤	▬	▬											
	○ヤマハギ	紅紫色					▬	▬							
	ウンゼンツツジ	淡紅紫色	▬	▬											
	クチナシ	白			▬	▬									
	センリョウ	黄			▬	▬				●	●	●	●		
	ナワシログミ	白	●	●				▬	▬	▬					
	ナンテン	白		▬	▬					●	●	●	●		
	ヒサカキ	白	▬						●	●	●			▬	
	ヒメユズリハ	赤紫色・淡黄～緑		▬											
	マサキ	緑白色			▬	▬				●	●	●	●		
	マルバグミ	黄白色							▬	▬					
	マルバシャリンバイ	白		▬											
	マンリョウ	白				▬	▬		●	●	●	●	●		
	モチツツジ	淡紅紫色	▬	▬	▬										
	ヤブコウジ	白				▬	▬		●						

古くから日本人に親しまれるヤマハギ



不思議な色合いの実が美しいムラサキシキブ

独特な赤い花色を持つヤマツツジ

赤い実と照葉が魅力的なヤブコウジ

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

草花を高木や中低木と組み合わせ、植栽地に大小の植物が重なることで立体感を生み出します。さらに、草花を多様にすることで、花や葉の色や香り、実の色、形など季節感と自然感を生み出します。

多様な草花が、ガーデンミュージアム*をより美しく楽しく演出します。

雑木の庭における代表的な草花の花期カレンダー

※ハーブ　　花期　　●実のなる時期

種類	名称	花の色	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
草花 40cm ～ 50cm	ローズマリー※	多色							■	■	■	■	■	■	
	レモンバーム※	白	■	■	■	■	■	■							
	レモンバーベナ※	白		■	■	■	■	■							
	キキョウ	紫			■	■	■	■							
	クリスマスローズ	白・ピンク	■	■									■	■	
20cm ～ 30cm	ラベンダー※	紫	■	■	■	■	■	■	■	■				■	
	オレガノ※	ピンク・紫	■	■	■	■	■	■	■						
	シロタエギク	黄	■	■					■	■	■	■	■	■	
	ブルーデージー	青	■	■	■			■	■	■	■				
	ツワブキ	黄							■	■	■				
	ギボウシ	紫		■	■	■	■	■							
	バーベナ※	多色	■	■	■	■	■	■	■	■					
	シャガ	淡紫	■											■	
	ヤブラン	紫						■							
グランドカバー 10cmまで	ツルニチニチソウ	紫				■	■	■							陽に当ると花がつく
	ヒメイワダレソウ	白			■	■	■	■							
	アジュガ	ピンク・紫	■	■											
	ヒガンバナ	白・赤						■						■	
	スイセン	黄	■								■	■	■	■	

春から秋まで長期に楽しめるバーベナ

紫花の代表種キキョウ

カーペット状の紫葉が魅力的なアジュガ

山間の湿地などに自生し、花が美しいギボウシ

注：文中の*は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（３）各ガーデンにおける植栽例

ガーデンミュージアム*は、様々なテーマガーデン*が連続して展開することで、変化と楽しみのある空間を創ります。代表的なテーマガーデンの植栽例を以下に紹介します。

■ウォーターガーデン*

水辺を取り入れたガーデン*。水生・湿性植物を植栽し、様々な生物が生息する水辺環境を創ります。

【主な植栽例】
サギソウ、カキラン、ノハナショウブ、サワヒヨドリ、ミズギボウシ、モウセンゴケ、ミミカキグサ、イシモチソウなど

■フォレストガーデン*

雑木林にみられる植栽構成を取り入れたガーデン。四季や生命力を感じる空間を創ります。

【主な植栽例】
アオダモ、ナツハゼ、ソヨゴ、ヤマザクラ、シラカシ、シャラ、ヤマモミジなど

■野草ガーデン*

自然界によくみられる野草を取り入れたガーデン。様々な野草で足元を楽しませ、懐かしさや、爽やかさ、さらには歌や文学をも思い起こさせます。

【主な植栽例】
オダマキ、ギボウシ、シラン、ホトトギス、シャガ、ヒガンバナなど

■菜園ガーデン*

野菜やハーブ、果物などを収穫できる「おいしい」庭を取り入れたガーデン。菜園の周囲は、様々な花木で美しい風景とします。

【主な植栽例】
野菜類、ベリー類、ハーブ類など

注：文中の*は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

4．3「集客と自立運営へ」にぎわい空間計画

（１）にぎわい空間計画の考え方

草津川跡地では、単なる公園・緑地として整備するのではなく、市民や市民団体、民間企業などが緑地の維持・管理、レクリエーション施設の運営などに積極的に参画し、人々が集い・楽しみながらみどりを育み、また、そこでの遊びや文化活動などを通じ、自己実現やコミュニティ形成の場として機能するにぎわいの空間づくりを目指しています。

にぎわい空間は、豊かなみどりを背景とする魅力的なガーデン*空間と一体的に立地する「にぎわい施設」を拠点として形成します。ガーデンミュージアム*を構成する各種ガーデンごとに、多様なニーズ*に対応した特色ある「にぎわい施設」を配置することで、様々な世代の市民や来訪者が集い・交流するきっかけづくりを積極的に進め、まちのブランドイメージの向上と活性化につなげます。

また、これらにぎわい施設の運営に関しては、民間事業者などの参入も想定し、草津川跡地の維持管理費用を補う収入源としての活用も検討します。

（２）にぎわい施設計画

にぎわい施設は、新たなライフスタイル*を反映した先進的なニーズに対応する施設内容を目指し、周辺環境・土地利用との調和や相性、市街地からのアクセス*のし易さなど、施設機能に応じ立地適性を踏まえた配置とします。以下に、にぎわい施設の例を示します。

①田園系にぎわい施設

周辺に農地が広がる区間②においては、農的な環境を活かしながら、都市住民などにおける土や自然、動物とのふれあい、食への関心などのニーズに応えるにぎわい施設を配置します。

■菜園ガーデン*

近年、ニーズの高まりが著しい、土とのふれあいに応える施設として、貸し菜園などの整備が考えられます。

ガーデニング*の手法を応用したハイセンスな菜園・周辺施設の修景を図り、ガーデンミュージアムにふさわしい景観のもと、ロッカールーム・貸し農具・カフェなど支援施設の充実、収穫したものをその場で食べることのできる休憩スペースなどの設置を想定します。

また、農家と連携した農業指導の充実など、にぎわい施設の運営を介した地域コミュニティ*の再生、地場産業の振興なども視野に入れます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

■ふれあい牧場

農地と一体化したのどかな環境のもと、癒しや情操教育などのニーズ*に対応する施設として、動物とのふれあいを活用した施設の導入が考えられます。動物の飼育体験や見学・ふれあいなどを提供する牧場的な体験型施設が想定され、ふれあい動物園、乗馬体験、アニマルセラピー*などの機能が考えられます。

ふれあい牧場は、市街地に近くアクセス*の良い浜街道交差点付近に配置し、農的にぎわい空間において集客の核となる施設とします。

■農産物直売所

スローライフ*や健康志向を背景として、オーガニック*や地産地消、食育など、食に対するニーズの高まりがみられ、同ニーズに応える施設として、農産物直売所*の設置が考えられます。

近年、顔の見える農作物販売ルートとして、生産者と会員契約する直販所などが普及しつつあり、消費者ニーズに応えると共に、生産者の意欲向上に結び付きます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

②健康・文化系にぎわい施設

市街地に隣接する区間③、区間④においては、日常的なアクセス*に恵まれると共に、草津川跡地に沿って学校、運動公園などの都市施設*が立地しています。生活空間に隣接する緑地環境を活かしながら、これら都市施設と連携したにぎわい機能を展開することとし、スポーツや健康づくり、コミュニティ活動や環境学習などの拠点となるにぎわい施設を配置し、人々の日常的なレクリエーションや文化活動などのニーズ*に対応します。

区間⑤⑥においては、東海道や中山道、草津宿などが所在する立地を活かし、地域の歴史に触れ、学ぶことのできる空間を整備します。

■スポーツ施設

余暇の増大や健康志向などを背景とする人々のスポーツへのニーズに応え、屋外広場を活かしたフットサル*、グラウンドゴルフ、ウォールクライミング*、スケートボードなど、専門的な施設を備えたスポーツ施設の導入が考えられます。

施設整備や運営に民間事業者の参入を図ることで、トレーナーによる指導や本格的な器具・設備などを備えた高度な施設整備が期待できます。

また、シャワーやロッカールームを、散策やジョギングに訪れている一般利用者に有料で開放するほか、カフェを併設するなど、収益基盤を強化しつつ、草津川跡地の利便性を向上する対応も考えられます。

■市民活動広場など

市街地内に連なる身近な緑地環境を活かし、学校などの都市施設との連携を図りながら、市民の文化・学習活動やイベントなど、多様なコミュニティ活動のニーズに対応することとし、広場、ビオトープ*、市民の森など、人々が集い・活動する場を配置します。

プレイパーク*のように、ボランティアリーダーのもと、子ども達の自由な遊び・学習を見守るなど、市民参加型の施設運営も考えられます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

■市民の森

市民の自然とのふれあいを求めるニーズ*に応え、草津川跡地を社会貢献・コミュニティ形成の場として積極的に活用していくため、市民が主体的となって、植樹や維持管理などに取り組む、「市民の森」を設置します。

そこでの森づくりを契機として市民団体を立ち上げるなど、コミュニティ活動の初動の場として活用するほか、森づくりを通じて下草刈りや間伐の講習、炭焼き体験など、様々な市民団体活動を展開し、草津川跡地を維持・運営していくための人材育成の場として活用していきます。

■東海道歴史広場

区間⑤⑥は、東海道や中山道、草津宿などの歴史資源が所在する立地を活かし、街道文化をテーマにしたにぎわいのある空間を演出します。

ゲート風の工作物などにより、草津宿へとつながる導入部分を創設するランドマーク*を形成するほか、植栽や舗装材などにより、歴史文化的な環境・景観づくりを行い、案内板や休憩施設などを設け、市民や街道を散策する観光客などが、草津宿などの歴史に触れ、学べる場とします。

注：文中の*は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

③都市系にぎわい施設

中心市街地に位置する区間⑤は、駅至近の立地を活かし、ガーデンミュージアム*に人を呼び込む中心的なにぎわい空間とし、また、中心市街地活性化事業と連携し、草津駅前を中心とした地区全体の回遊性を高め、交流人口の増加を促す拠点施設として整備します。

各種テーマガーデン*と一体的に、商業・飲食などの都市型の集客施設を配置し、みどりとにぎわいが調和するハイセンスで魅力的なアミューズメント*空間を演出します。

■カフェ・レストラン

利用者がガーデン*を眺めながら、休憩や食事のできる場として、カフェ・レストランを配置します。テラス席など、屋外環境を活かした施設デザインとし、みどりを楽しみながらオーガニック*やスローフードなど、新しい食文化を体感できる場とします。

菜園で収穫するハーブや野菜を活用したメニューづくりなど、他のにぎわい施設と連携した施設運営を図るほか、クッキングスクールの開催など、コミュニティ活動展開の場としても活用します。

■セレクトショップ

にぎわい施設の核として、ハイセンスなセレクトショップ*の導入を図ります。テーマガーデンと一体化した店舗デザインを図ることで、まちなかのショップにはないみどり豊かで、ファッショナブルなにぎわい空間を演出します。単に物を買うだけでなく、みどりの合間に見える店構え、ディスプレイ自体が新しいライフスタイル*を発信するような施設づくりを目指します。

ガーデンミュージアムならではの商業施設として、ガーデニング*関連、ナチュラル志向のセレクトショップなどが考えられます。

また、地場産業の振興策として、草津宿の伝統工芸品などのアンテナショップなどが考えられます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

■体験型施設

セレクトショップ*の合間にはカルチャースクールなどを混在させ、新しいライフスタイル*を体験し、学ぶことのできる場として機能を充実します。

ガーデン*を活かした体験型施設として、フラワーアレンジメントなど各種クラフト教室、また、草津宿の伝統工芸などの体験型施設が考えられます。

■レンタルサイクル

延長の長いガーデンミュージアム*の移動手段としてレンタルサイクルを導入し、そのメインステーションを区間⑤に配置します。

通常の貸出業務のみならず、ブランドバイクの試乗・レンタル、メンテナンス講座、交通安全講座などの展開も考えられます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

４．４「歴史と景観を演出する」シンボル空間計画

（１）シンボル空間計画の考え方

旧草津川は、東海道・中山道により形成された宿場町のほとりを流れ、周辺には宿場町の名残をとどめるまちなみが残り、追分や社寺など、歴史的な資源が点在しています。また、江戸中期より土砂の堆積による河床の上昇と治水対策としての築堤により、周辺の土地よりも川床が高い天井川*として、独特の地形が形成されました。

草津川跡地の整備に際しては、このような草津川跡地の固有の歴史の継承や、景観条件を活かしながら、個性的なランドスケープ*が形成されるよう、シンボル空間*として演出します。

（２）堤体の特性を活かしたシンボル空間

草津川跡地の天井川としての地形を活かしながら、より親しみやすく、魅力的な空間とするため、次のような空間演出を図ります。

■堤体構造の保全

堤体は、極力、現堤体の名残をとどめるよう、造成計画において配慮します。区間⑤は、現堤体構造を原則保全することとし、天井川としての歴史をとどめる場とします。

■桜並木の保全

堤体に植樹された桜並木は、長い間市民に親しまれ、旧草津川の面影をとどめる景観資源として機能しています。桜並木を極力保全すると共に、必要に応じて樹木の更新や補植などを施し、将来への継承を図ります。

■眺望景観の活用

草津川跡地は、平坦地の多い草津市において、まちの身近な高台を形成し、家並みを見渡す視点や旧河道の広がりを活かした、優れた眺望が展開しています。

以下に、眺望景観の活用の例を示します。

［比叡山などの眺望の活用］

眺望の開ける空間には、休憩スペースを兼ねた広場などを適宜配置し、比叡山など草津川跡地の特徴である景観を望む場を確保します。

注：文中の*は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

［堤体上や橋梁部からの視線を意識した空間デザイン］

旧川床部の整備に際しては、堤体上や橋梁部から見下ろされる特性を活かし、植栽・空間のデザインを工夫します。

［街道を望む眺望点の整備］

草津川マンポ*上部では、街道沿いのまち並みを望むことのできる展望施設を整備します。

■効果的な照明計画

夜間でも緑地を安心して利用できるよう、適度な灯りを確保する照明を設置します。その際、草津川跡地の「長さ」を活かした夜間景観の演出となるよう、明かりの連なりなどを効果的に見せるデザインに留意します。

間接照明やシンボルツリー*のライトアップ、フットライト*の活用など、利用者の視点に立った効果的な照明デザインを図ります。

（３）歴史的資源を活かしたシンボル空間

街道沿いのまちなみが広がっており、これら歴史資源との調和・活用を踏まえたシンボル空間*の演出を図ります。

■街道歴史資源との調和・活用

東海道・中山道沿いのまちなみは、草津市の大きな観光資源です。草津川跡地の整備は、街道景観との調和に配慮すると共に、歴史的環境を活かした魅力ある空間・施設などの整備を図ります。以下に、街道歴史資源との調和・活用の例を示します。

「国史跡草津宿本陣」

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

［歴史的環境を活かしたにぎわい施設の導入］

「マルシェガーデン*」としてにぎわい施設の導入を図る区間⑤では、古くからの商家の工芸品や職人技などを活かし、体験型施設やショップなどの導入を検討します。

［東海道の入口空間の演出］

東海道に接し、東から草津宿へとつながる区間⑥では、歴史的環境を演出する和風の植栽・空間デザインを施し、歴史的まちなみへの導入部を演出します。

［歴史的まちなみと調和した堤体デザイン］

街道の分岐・合流点、草津宿本陣や草津川マンポ*など歴史的遺産が所在する区間⑤周辺においては、歴史的なまちなみとの調和に留意し、瓦や石材など、伝統的素材による施設デザインを図ります。

特に、堤体と接する追分においては、堤体・街路デザインと一体的な空間演出を図り、史跡を活かした歴史的環境を形成します。

■草津川マンポの改修

駅前商店街に位置する草津川マンポは、明治期に整備されて以来、旧草津川により分断されていた草津市中心市街地の南北を結ぶ交通施設として利用されてきました。また「草津のマンポ」として、開設当時から市民に親しまれています。

このように草津川マンポは、中心市街地に隣接し、草津川跡地のにぎわいの中心となる「マルシェガーデン」へのメインエントランス*として重要な位置にあります。草津川跡地の整備にあわせて草津川マンポを改修し、歴史的環境との調和を図りながら、ランドマーク*としてのデザイン性や機能の向上を目指します。また、段差を活かしながら草津川跡地への正面玄関となる広場を整備し、中心市街地からのスムーズなアクセス*を確保すると共に、イベントなどの場として活用します。

草津川マンポ南側の入口広場のイメージスケッチ

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（４）交差点を活かしたシンボル空間

草津川跡地は、市内中央部を東西に延長約 5.7km で横切っており、南北方向の幹線道路と交差点を形成しています。これらの交差点は、広域幹線道路や周辺市街地から草津川跡地へアクセス*する主要な入口部として機能すると共に、区間延長の長い草津川跡地において、空間の節目を構成しており、メリハリある景観形成を図る上で重要な役割を担います。

主要交差点は、緑軸*へのエントランス空間として、広場整備を図ると共に、施設デザインやシンボルツリー*などによる交差点ごとの特色づけを図り、ランドマーク*性の高いシンボル空間*を演出します。

（５）日常空間のシンボル空間化

草津川跡地は、遠方からの利用者だけでなく近隣住民に親しまれる空間でもあります。これから整備する入口広場については、高木やパーゴラなどの公園的な施設により特徴のある広場を計画します。また、これらの施設については、憩いの場所になることを目指しています。

さらに、これらの広場は災害時においても、近隣住民の避難の目印や家族の集合場所になるような機能も持ち合わせます。

（６）シンボル空間の整備手法

シンボル空間の整備にあたっては、ワークショップ*など住民参加の手法を積極的に活用します。また、シンボルツリーの植樹祭などを実施することで、草津川跡地への愛着を育み、維持管理などへの市民参加の契機としていくことも考えられます。

景観上特に重要な空間・構造物の計画にあたっては、アイデアコンペ*を開催するなど、幅広く当地の試みをアピールし、かつ市民の計画への関心や参加機会を作ることを今後検討します。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

4．5「安全と快適を追求する」動線計画

（１）動線計画の考え方

■生活を優先した道路整備

草津市では、円滑な交通環境と良好な都市環境の形成のために、国道１号や大津湖南幹線、下笠下砥山線、青地駒坂線などの幹線道路や、その他の都市計画道路などを配置・計画しています。

草津川跡地道路は、跡地に整備されるにぎわい施設や沿道利用を主体とした交通に対応し、商店街の買い物道路や住宅地内の道路のような地域密着型の生活道路として整備します。

■歩行者、自転車に安全・安心で快適な空間の確保

草津川跡地の施設を利用する際には、自動車のほか、歩行者・自転車など多様な交通手段による連絡が想定されます。それら交通が錯綜することなく安全かつ快適に利用できるよう、歩行者・自転車・自動車の交通空間を分離し整備します。

バリアフリー*対応として、歩行者・自転車道の段差処理に留意し、ベビーカーや車いすなどの利用に配慮します。草津市のシンボル*的な施設である草津川マンポ*では、にぎわい空間へ至るエレベーターを設置します。

草津川跡地全体の利便性を高め、敷地内を容易に移動できる交通手段として、コミュニティ・バス*やレンタルサイクルなどの導入を検討します。また、自動車からモーダルシフト（自動車からバス・自転車などへの転換）を図るために適正な規模の駐車場を配置します。

■効率的な土地利用の促進

草津川跡地ができるだけ効率的で有効に活用できるよう、現在の堤防道路を活かした計画とします。

特に、区間④においては、草津川跡地と隣接する野村運動公園、市営住宅跡地のそれぞれの計画が、一体的な土地利用が図れる道路計画とします。

■既存道路の改善

現状において、草津川跡地道路に接続している道路は、新規道路整備においても交差点を設け、現況の交通機能を維持します。草津川跡地道路は、河川であったため橋梁部が高くなる凸型（太鼓状）の縦断でしたが、この凸型縦断を解消し、見通しのきく安全な道路へ改良します。

沿道利用に配慮し、既存の取り付け道路の改善や利便性向上のために新たな取り付け道路についても考慮します。適切な改良を行うことで、現況の生活動線*の安全性とスムーズな交通流動を確保します。

■緊急時・災害時の移動・輸送路の強化

区間⑤の道路は、歩行者専用道路として一般車両は通行しませんが、緊急時・災害時では、緊急車両を通行させ、琵琶湖から広域交通の要である国道１号や山手幹線などにつながる移動・輸送路として利用します。草津川跡地が災害時の避難地として容易に周辺道路から跡地内へ進入できるよう、道路や階段を改良すると共に新たなアクセス*路を整備します。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

■区間⑤の道路について

区間⑤の道路の通過交通については、平成２２年度に検討された基本構想段階での検討委員会において次の基本計画策定の中で再度議論することとなり、平成２３年度に市民の方々から構成された検討委員会を新たに設置して、基本計画の中で検討しています。

検討委員会では、基本計画の「理念」「空間目標・空間像」に照らし、すべての施設、仕組み、活動において、質の高い空間づくりのため、総合的にデザインするトータルデザイン*の考え方を持って、上位関連計画、交通量などの現地調査から、区間⑤の道路機能について多角的に検討を行いました。

＜上位計画・関連計画における草津川跡地道路の位置づけ＞

・市域全体の道路網は、国道１号や外環状線、内環状線などの都市計画道路で構築し、将来の市街地動向や交通処理に対応することとしており、草津川跡地を幹線道路として位置づけていません。

・区間⑤の周辺道路は、市内共通の歩車分離などの課題はありますが、都市計画道路の整備や既存道路を改良することで、地区の利便性、安全性を高めることができます。

・草津川跡地に道路を整備する場合は、通過交通機能の道路ではなく、にぎわいやアクセス*性を高める機能が必要です。

＜区間⑤付近の道路の交通量と道路の状況＞

・交通量を測定するナンバープレート調査の結果から、大江霊仙寺線付近から国道１号付近へ移動する車は約 330 台/日と少ないこと、多くは草津駅周辺の施設などを目的とする交通であることが解りました。

・現状は住宅や商業地であるため、１車線道路や一方通行などの道路が多いものの、通勤時間帯などを除いては、際だった渋滞や混雑は発生していません。

＜トータルデザインから見た区間⑤の道路機能のあり方について＞

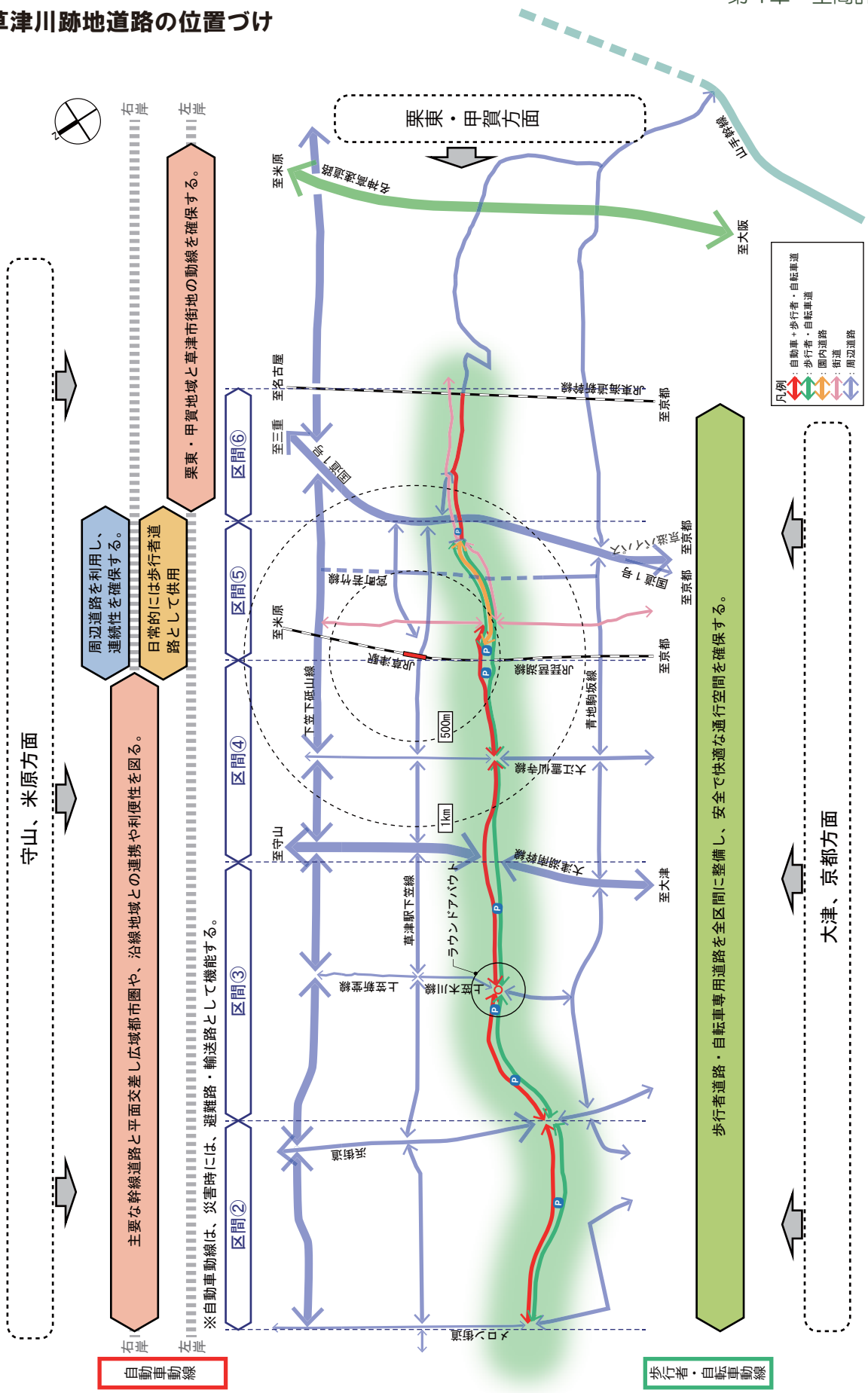
・にぎわい空間の創出のため、集客効果の高いテーマガーデン*やカフェ、セレクトショップ*を備え、多くの市民や来訪者が集い交流する、安全安心な空間の整備をすることが優先であると考えました。

・現在、進められている中心市街地活性化事業と連携し、まちづくりの核となる場を創り、中心市街地の回遊性を向上させるため、歩行者主体の空間として整備することが優先されるものと考えました。

本計画において、まちづくり資源として草津川跡地の優れた特性を発揮し、草津市の都市価値を高めるため、区間⑤の道路機能については、歩行者主体の道路として整備することが望ましいと判断しました。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

草津川跡地道路の位置づけ



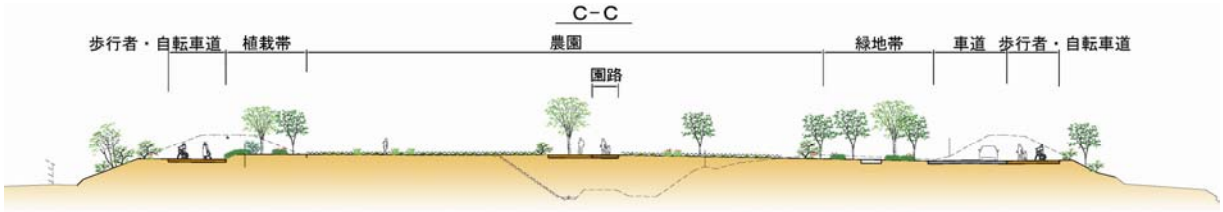
（2）道路計画

①区間②、③、⑥

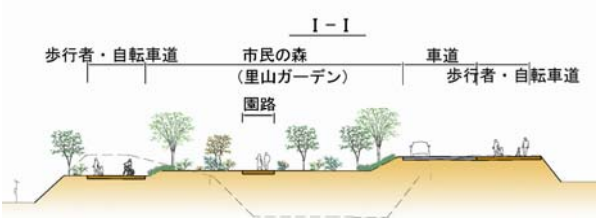
区間②、③、⑥については、堤体上の既存道路を活かしながら、延長の長い草津川跡地への自動車アクセス*を確保します。

道路位置は、オープンスペース*をできるだけ効率的に確保できるよう、車道を端に寄せ、車道の片側に歩行者・自転車道を併設する構造とします。また、区間②③では車道の対岸において歩行者・自転車道を配置し、自動車交通から隔てられた歩行者・自転車の専用空間を確保します。

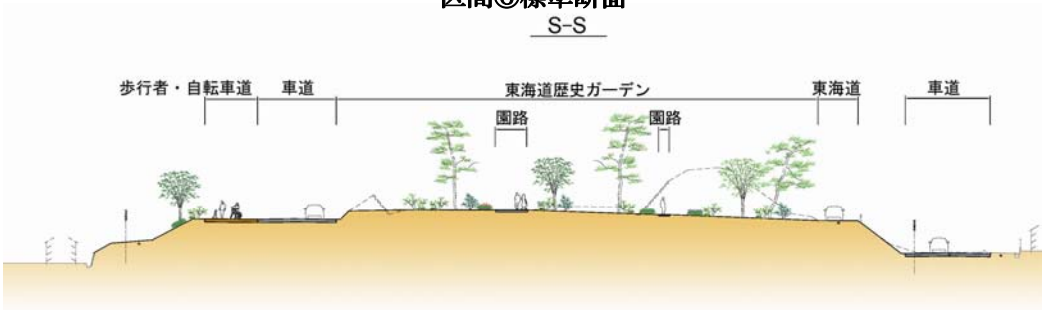
区間②標準断面



区間③標準断面

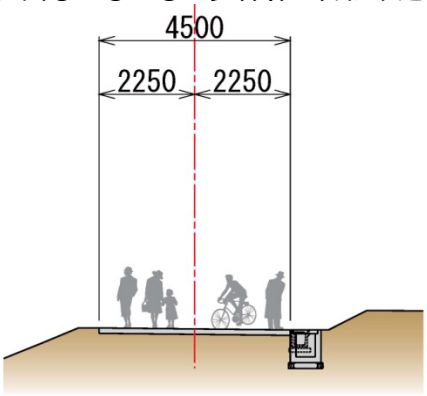


区間⑥標準断面



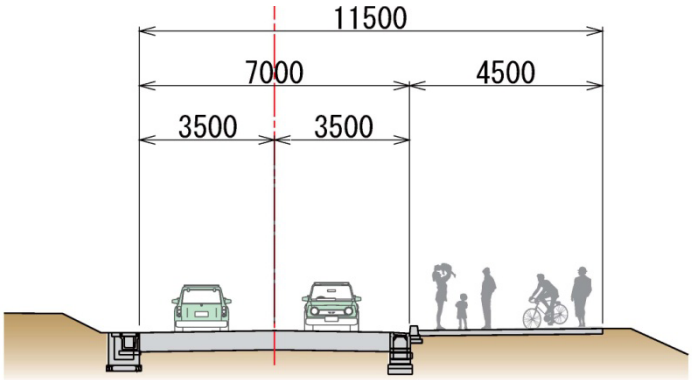
道路標準断面

（区間②、③、④：歩行者・自転車道）



道路標準断面

（区間②、③、⑥：車道＋歩行者・自転車道）



注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

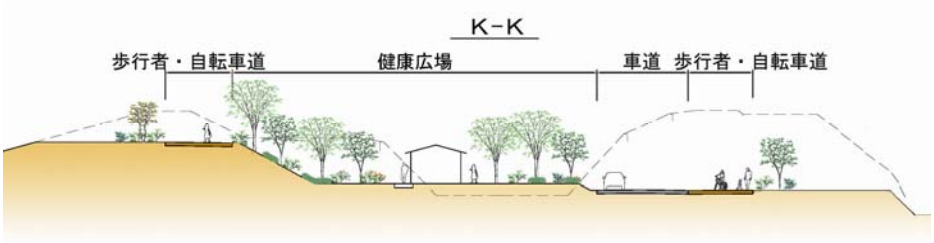
②区間④

区間④では、隣接する野村運動公園・市営住宅跡地と草津川跡地が一体化した土地利用が図れるよう、道路を片側に寄せます。

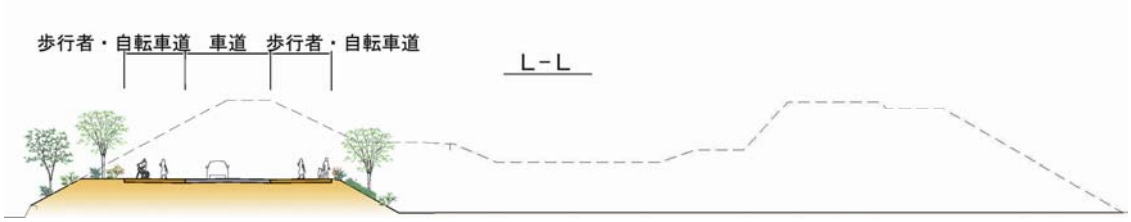
車道の両側は、歩行者・自転車道を配置し、沿道の利用の利便性を高めます。

ＪＲ琵琶湖線との交差部分については、ＪＲ用地の施設改良までの間は、現状の形態で利用します。

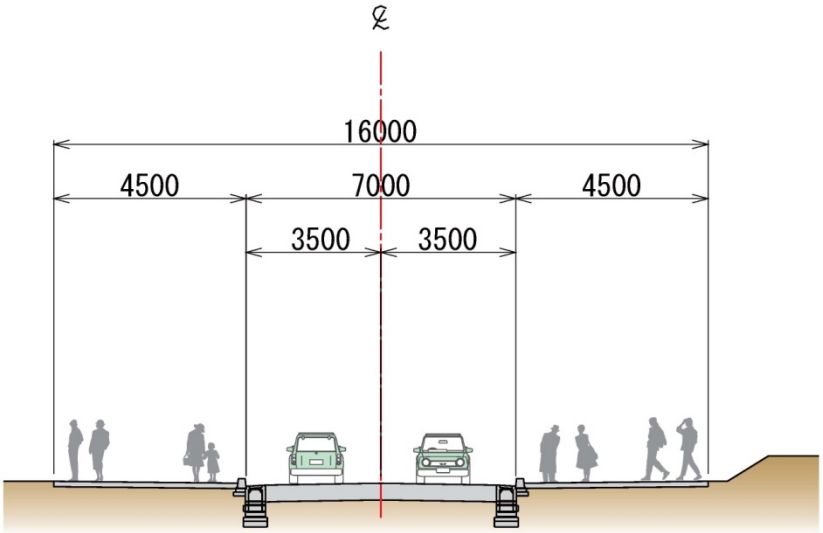
区間④標準断面　1



区間④標準断面　2



区間④道路標準断面図



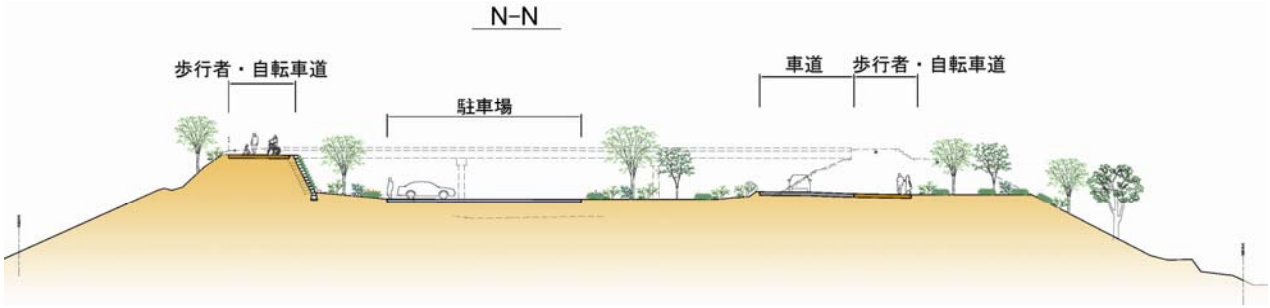
注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

③区間⑤

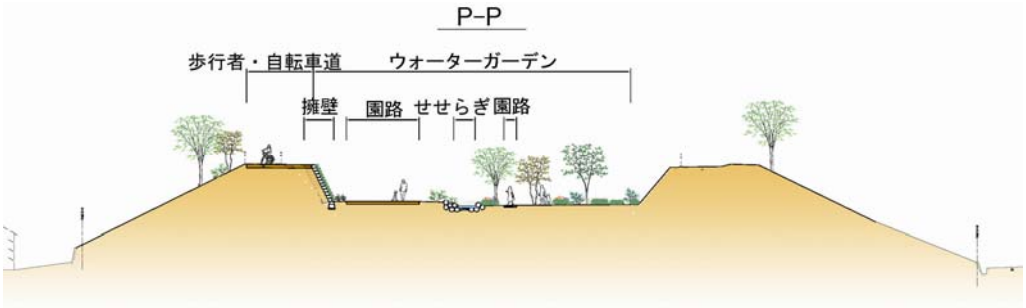
区間⑤の道路では、一般車両は通行させず、にぎわい空間において人々が、「安全・安心」にガーデンミュージアム*の中心となるテーマガーデン*を楽しむことができるよう、歩行者専用道路として整備します。

ただし、草津川跡地は本市の中心市街地、密集市街地を東西に横断する重要な防災空間でもあるため、緊急車両などの通行が可能な構造を確保し、災害時においては、救助活動や緊急輸送などの要となる道路として活用します。

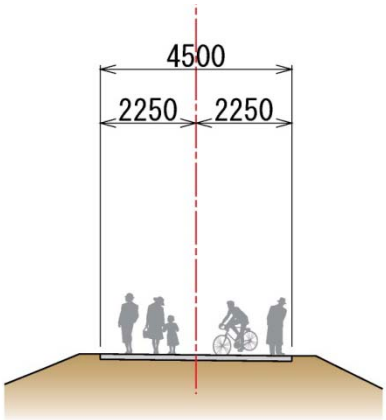
区間⑤標準断面　1



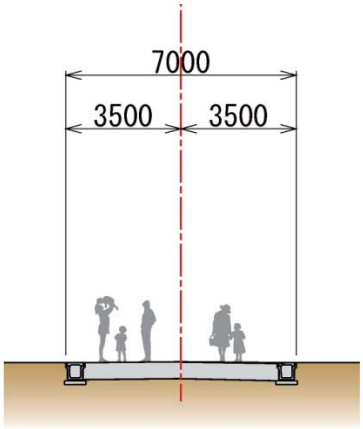
区間⑤標準断面　2



道路標準断面
（区間⑤：歩行者・自転車道）



道路標準断面
（区間⑤：園路）



注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

（３）交差点計画

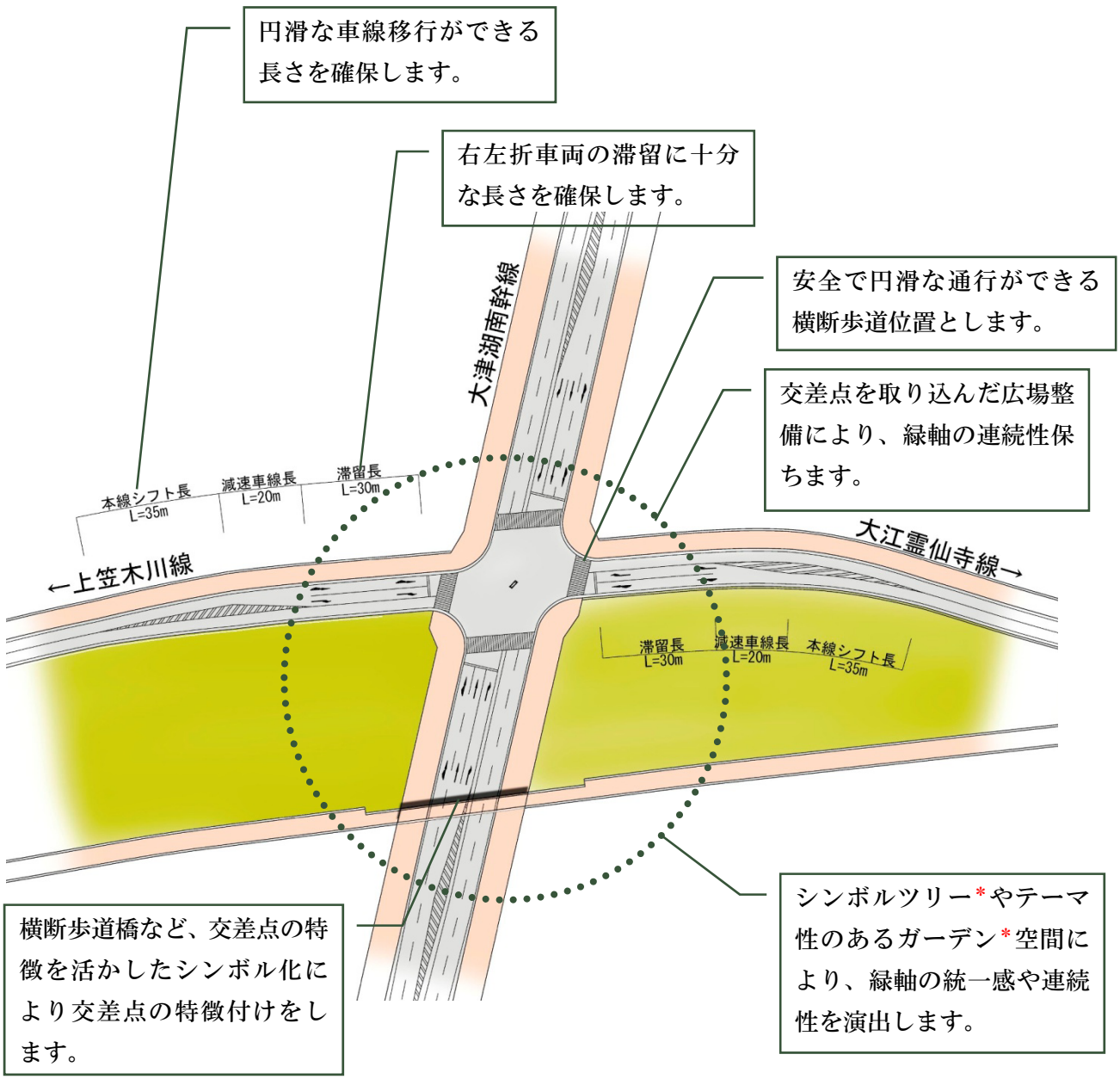
草津川道路は、市内中心部を東西に約 5.7km の延長で横切っており、南北方向の交通軸との間で交差部（交通結節点）を形成します。これら交通結節点が各区間の特徴を示すゲート（エントランス）となります。また交差点部は、草津川跡地や周辺地域の回遊性を高めることが求められます。

交差点計画では、交通結節点が琵琶湖から市街地までの緑軸*を分断することないよう、「緑の結節点（シンボル空間*）」とすると共に、モビリティーの向上と、安全で円滑な交通処理を図る構造として整備していきます。

①一般部交差点

草津川跡地道路と交差する「メロン街道」、「浜街道」、「大津湖南幹線」、「大江霊仙寺線」は、広域的交通を担う幹線道路として機能しております。草津川跡地内道路は、平面で交差することで自動車や歩行者などの利便性を高めます。

一般交差点　一般図（大津湖南幹線交差点）



注：文中の*は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

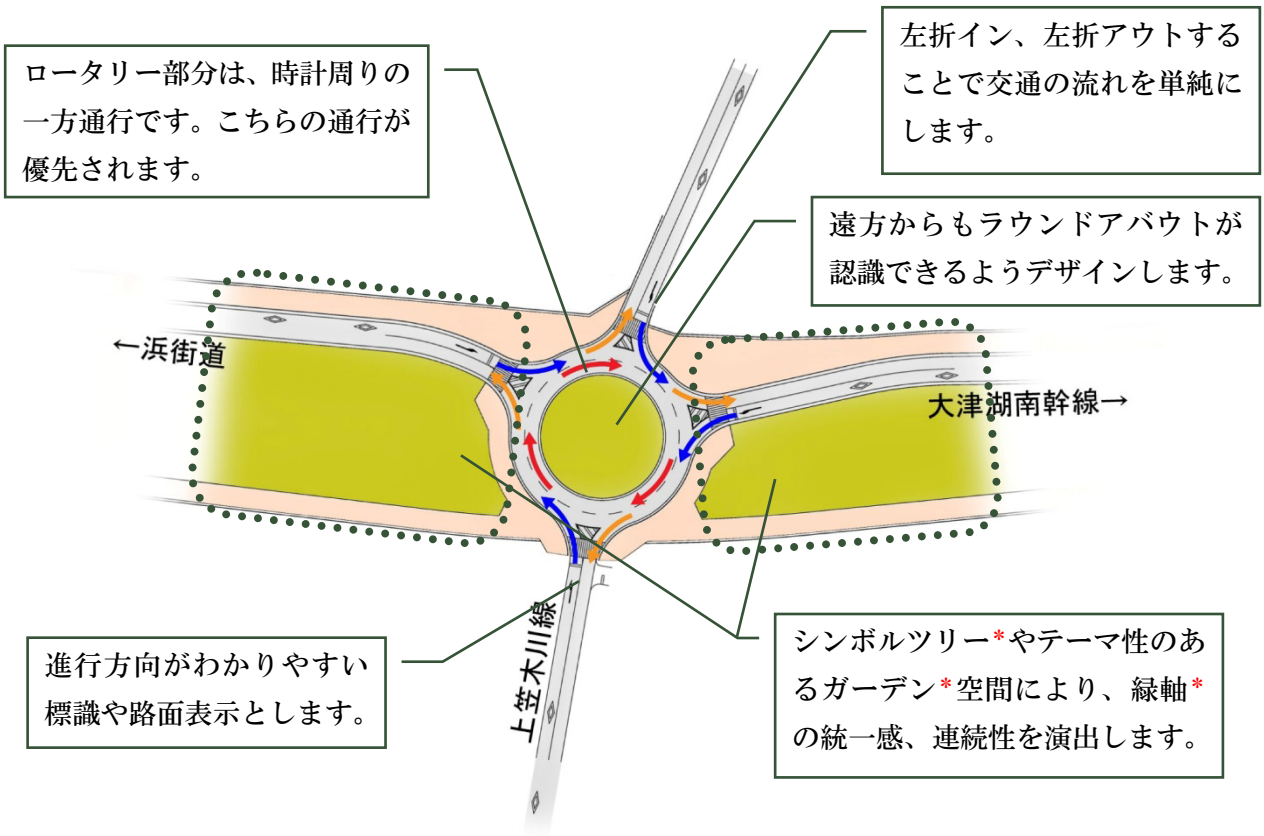
②ラウンドアバウト交差点

浜街道と大津湖南幹線の間に位置する市道上笠木川線との交差は、比較的交通量が少ない道路との交差のため、信号を設けなくても安全で容易に交通処理が可能なラウンドアバウト*を設置します。ラウンドアバウトの導入により、次の効果が見込まれます。

- 車両の挙動が単純（左折イン・アウト）で優先順位が明確であるため、交差点内での運転が常に容易になります。
- 交差点内をまっすぐに突っ切ることができないため、進入する車両は必ず減速します。事故発生を軽減できます。
- 信号設置による費用および、維持管理費が削減できるため経済的です。
- 交差点内に車両が無い場合、速やかに交差点内に進入が可能となり、遅れ時間が削減でき、また、騒音やＣＯ２*の削減に寄与します。
- 中央島の設置により、ドライバーや歩行者からの視認性が高まり、交差点をシンボル*化できます。

※ラウンドアバウト：ロータリー状の一方通行型の交差点で、安全かつ効率的な交差点制御として欧米諸国で積極的に導入が推進されています。日本においても長野県飯田市で導入され、環境にも優しいと注目されている交差点形式です。

ラウンドアバウト交差点　一般図（上笠木川線交差点）



注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。